

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170500237		
法人名	(医)加茂 医院		
事業所名	グループホーム やすらぎの丘		
所在地	佐賀県伊万里市大坪町甲2269-6		
自己評価作成日	平成30年1月26日	評価結果市町村受理日	平成30年10月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成30年7月24日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①家族様の面会が多いので、、時間をかけて要望を聞く事ができ、入居者様の事も細かく報告が出来る事で信頼関係が深まっています。</p> <p>②地区夏祭りの参加やボランティアの人を受け入れる事で地域との関わりも出ています。</p> <p>③週1回の主治医の往診と24時間の医療連携ができています。</p> <p>④本人様、家族様の希望があれば看取りを行います。</p> <p>⑤インシュリン注射や在宅酸素の方の受け入れができます。</p> <p>⑥四季折々の行事食やドライブにお連れして四季を感じて頂いています。</p>
---

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>閑静な新興住宅地の中にあり、住みなれた地域で生活が継続できるグループホームである。職員間の関係性もよく、一体となってホームの理念(真心、やすらぎ、思いやり)に沿った生活支援を行っている。特に、入居者本人や家族から意見や要望を聞くため、なるべく多くの情報提供や提案を行い、しっかりコミュニケーションを図っている。ベッド柵のカバーやクッション等の入居者の生活に必要な物品については手作りしながら、安定した生活が送ることができるよう取り組んでいる。また、協力医療機関を連携が図り、週1回の往診や緊急時の対応などの体制づくりも行っている。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	Aユニット	Bユニット		ユニット名	ユニット名
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	○	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	○
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	○	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	○
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	○	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	○
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	○	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	○
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	○	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	○
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	○	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	○
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	○			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	Aユニット	Bユニット	外部評価		
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>							
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝申し送り前の唱和を実践している。唱和をする事により、意識付けが出来、ケアに繋がっている。	毎朝申し送りの時理念の唱和を実施し意識して介護に取り組むように努めている。月間目標や年間目標も掲げている。	毎朝、朝礼で理念を唱和することで、意識的に支援ができるようにしている。また、日々の関わりや留意事項等を踏まえ、職員で共有しながら目標設定を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地区の夏祭り参加や地区のボランティアの訪問があり、楽しみを持って過ごされている。	地区の夏祭りに参加している。夏祭りは事前の会議や準備片づけまで手伝っている。	普段の散歩の際に挨拶をしたり、地域の祭りに参加し、交流を図っている。また、ボランティアや職場体験等の受け入れも行い、地域との付き合いを積極的に行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の夏祭りの参加やボランティアの方の訪問時等に認知症の事で困っておられ時には、いつでも相談して下さい。と伝えている。	地区の高齢者の方がたのボランティアを受け入れ、認知症の人の生活を見て頂き、職員がどの様に関わっているか、どの様な介護をしているか、伝えている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で外部評価の報告を行い、改善点(地域の方と避難訓練す為には、どうしたらいいか?)等を話し、意見を頂いている。	運営推進会議で外部評価の報告を行い、改善点(地域の方と避難訓練す為には、どうしたらいいか?)等を話し、意見を頂いている。	公民館で会議を開催し、地域の方と意見交換を行っている。会議で出た意見等は職員間で共有し、サービス改善につなげている。また、職員の事例発表会等へ案内し、ホームの理解へつなげている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認定調査の時に、今の現状やケアの取り組みを話している。運営推進会議に参加されるので、事例や現状を伝えている。	運営推進会議時、事例報告や行事報告を行っています。	介護保険改正に関する相談をはじめ、日々の取り組み等について、相談や報告を行っている。また、入居者の個別の相談でも連携を図り、協力関係を作っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	見守りを強化し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	見守りを強化し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の事案はなく、行動制限も行わないように気をつけている。日中は施錠をせず、外出された際は一緒に付いて行く等の対応をしている。また、職員へは研修会への参加と伝達研修を行い、理解を深めるようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、虐待防止の大切さを学んでいるし、月1回のヒヤリはっと会議も行って、ユニット会議でも話合っている。虐待発見時の通報・報告体制も作って職員に周知徹底している。	外部の研修に行った。打撲痕が出来やすい入居者様に対しユニット会議で検討会を開きその結果を家族に報告している。虐待発見時の通報・報告体制を作り職員に周知徹底を行っている。			

自己	外部	項目	Aユニット	Bユニット	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている人はいませんが、社協の安心サポートを利用されているので、社協の方との関わりもある。	成年後見制度を利用しておられる方がいる。月1回の面会もある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際はホーム長が家族の方に1時間ほど時間を掛けて話しをし署名捺印を頂いている。改定については利用請求の際別紙を添付し、質問等はホーム長が対応する様にしている。	契約の際はホーム長が家族の方に1時間ほど時間を掛けて話しをし署名捺印を頂いている。改定については利用請求の際別紙を添付し、質問等はホーム長が対応する様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を入口に設置している。面会時は、勤務の職員が要望を聞き、管理者への報告も行っている。ケアプランのモニタリングは、必ず家族の意向を聞いている。	意見箱を入口に設置している。面会時は、勤務の職員が要望を聞き、管理者への報告も行っている。ケアプランのモニタリングは、必ず家族の意向を聞いている。	家族の面会は毎月あり、その際に、入居者の状況を伝える等の関わりを持ち、家族等からの意見や要望を聞いている。また、支援内容等を提案し、積極的に意見を引き出せるように工夫をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議(主任以上の会議)やユニット会議でスタッフの意見を聞き見直し等も行っている。	定例会議(主任以上の会議)やユニット会議でスタッフの意見を聞き見直し等も行っている。	会議では積極的に職員意見が出ており、その他、個別相談に応じるなど、意見を出しやすいようにしている。出た意見はできるだけ反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各役職手当や資格手当もある。	各役職手当や資格手当もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員にあった外部研修を受け、研修報告書を提出し、全員が回覧し現場に生かしている。	職員に合った外部研修に参加している。職員が希望する研修があれば受ける事もできる。研修報告書を出して全員が回覧している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホームの研修に参加してグループワークを行い、意見交換をし、サービスの向上や勉強になり、実践する事が出来ている。	県グループホームの研修に参加してグループワークを行い、意見交換をし、サービスの向上や勉強になり、実践する事が出来ている。		

自己	外部	項目	Aユニット	Bユニット	外部評価		
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>							
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時に家族と面談を行い、要望や性格、好きな食べ物等をお聞きし、ホームの生活を安心して過ごして頂けるような工夫をします。	契約時に家族と面談を行い、要望や性格、好きな食べ物等をお聞きし、ホームの生活を安心して過ごして頂けるような工夫をします。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に、重度化した時の話や面会、外出の事等詳しく話もするし、家族の要望も聞いて、職員に周知している。	契約時に、重度化した時の話や面会、外出の事等詳しく話もするし、家族の要望も聞いて、職員に周知している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様の要望や本人様の困っておられる事をリサーチしユニット会議で話し合い情報の共有をしケアを行っている。	家族様の要望や本人様の困っておられる事をリサーチしユニット会議で話し合い情報の共有をしケアを行っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にもかかわらず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	気の合う方同志でテレビを観たり、職員と一緒に外へ出て花見や食事をして楽しんでいる。積極的に手伝われる時は、お願いして、そうでない方にも、スタッフと一緒に洗濯物たたみ等をして頂いている。	職員と一緒にレクリエーションをしたり、ドライブに出かけている。普段も談話の中で傾聴、共感、受容を心がけている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にもかかわらず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時は、居室でゆっくり過ごされる時間を設けています。その際要望があらわれる時は、スタッフがお聞きしている。	面会時は、居室でゆっくり過ごされる時間を設けています。その際要望があらわれる時は、スタッフがお聞きしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前ボランティアをされており、入居後もボランティアにお友達と参加されています。	以前からの行きつけの美容院に定期的に行かれパーマをかけたり、染めたりされている。月1回娘様と外出され行きつけの美容院に行かれる。	行きつけの美容院へ出かけたり、入居前からの地域での活動を引き続き行ったりするなど、継続して地域や社会とつながることができる支援に取り組んでいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いの居室に遊びに行かれ談話されたり、一緒に塗り絵をしたりして過ごされている。	レクリエーションに参加したり、お茶の時間をゆっくり過ごされている。			

自己	外部	項目	Aユニット	Bユニット	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りで契約終了になられる方が殆どなので、相談等はないが、無くなられた後誕生日に花を送った。	看取りをされた家族の方が古新聞を持って来られ、お茶を飲んで談話をして帰られる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	気候が良い時は、仲の良い人と日向ぼっこをされたり、意志が伝えられない人は、食事やおやつを食べれる時、パクパク食べられる物を把握し好きな物を知る。	自分の部屋にテレビを置き、好きな時にテレビを見て過ごされている。	本人との関わりの中で、思いや意向を把握している。難しい場合には、家族からの情報提供や本人へ複数の提案を示し、選択してもらうことで、その人の思いや意向を把握しよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生け花が趣味であられるので、家族の方が生花を買ってこられ、嬉しそうに生けられている。	郵便局に努めておられ、夕方になると「急いで帰らんば！」と思っておられ、落ち着かれ無くなるので、話を傾聴し安心して頂けるような環境作りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お茶が好きで、お茶を飲もうとされるが他の方の分も気になられるので、職員と一緒に注いで頂いている。	少しでも長く座っていると、座位が難しい方は、食事の直前に起きて頂き、食後も本人様の体調で、口腔ケアを行い入床して頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングする時は、必ず家族の意向を担当者が聞く。意向が言える方は本人様に聞いている。ユニット会議で全員で話し合いケアの方法を決めている。	モニタリングする時は、必ず家族の意向を担当者が聞く。ユニット会議で全員で話し合いケアの方法を決めている。	家族や職員から日々の状況等を聞き取り、会議にて協議を行い、地域資源も取り入れた介護計画を作成している。また、計画に沿ったチェックリストを活用し、計画の実施状況が確認しやすい工夫を取り入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきノートを作り、家族様の情報や本人様の言葉・行動等を記録し情報の共有をしている。	気づきノートを作り、家族様の情報や本人様の言葉・行動等を記録し情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	膝・腰痛の方は電気治療にお連れしている。	膝・腰痛の方は電気治療にお連れしている。		

自己	外部	項目	Aユニット	Bユニット	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区の夏祭りに当ホームも出店し入居者様と地域の方との交流もあり、楽しまれている。	1年に1回ふれ合いステージ(伊万里市の福祉施設が歌や踊りを披露したり、作品展示をする。)に参加して伊万里市民の方に見て頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	前立腺癌の方の病院受診は、家族の要望もあり職員が連れて行っている。	かかりつけの歯科から衛生士さんが来られ、自宅でされていた、口腔の管理をされている。義歯の不具合があられたので、職員が同行し、調整が出来た。	かかりつけ医や他科受診等、本人や家族の希望に添えるように支援し、必要に応じて職員が受診の付き添いを行っている。協力医療機関とも連携を図り、ターミナル等の医療的支援も準備している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日朝のバイタルを母体の病院にFAXしその情報を主治医に報告して、11:00頃看護師が毎日容態観察と週1回の主治医の往診をがある。	毎日朝のバイタルを母体の病院にFAXしその情報を主治医に報告して、11:00頃看護師が毎日容態観察と週1回の主治医の往診をがある。褥瘡の処置も毎日看護師が来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時は、洗濯物を取りに行ったり、MSWを情報を共有し退院の時期を打合せしたり、家族の意向も聞いて、主治医と病院の主治医の連絡を取っている。	入院された時は、洗濯物を取りに行ったり、MSWを情報を共有し退院の時期を打合せしたり、家族の意向も聞いて、主治医と病院の主治医の連絡を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の対応に係る指針を話し署名されている。ターミナルが近くなると主治医と家族が話し合い今後の方針を決め、再度プランを立て家族の承諾を得て、それに従って支援をしていく。	契約時に重度化した場合の対応に係る指針を話し署名されている。ターミナルが近くなると主治医と家族が話し合い今後の方針を決め、再度プランを立て家族の承諾を得て、それに従って支援をしていく。	入居時に重度化した場合等の説明を行い、ホームでできる事等について、家族にも理解を得るようにしている。また、協力医療機関とも連携を図り、柔軟な対応ができるような体制づくりを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	異物除去法やAEDの訓練を職員全員で行った。	異物除去法やAEDの訓練を職員全員で行った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定して18:30より職員全員出席で消防訓練を行った	夜間を想定して18:30より職員全員出席で消防訓練を行った	年2回の避難訓練や原発対策の訓練を行っている。避難する際には近隣の協力を得られるように自治会と協議を行っている。また、各ユニットには災害時の備蓄を行っている。	ホーム周辺は土砂災害等の可能性もあるため、様々な災害を想定した対策について、地域住民と協力関係を築く中で、実践的な検討していくことに期待したい。

自己	外部	項目	Aユニット	Bユニット	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人様が話しやすい方言を使ったり敬語を使ったりしてその方に合った会話をしている。難聴の方はジェスチャーや筆談をしている。	本人様が話しやすい方言を使ったり敬語を使ったりしてその方に合った会話をしている。難聴の方はジェスチャーや筆談をしている。	入居者一人ひとりに合わせた話し方を考え、尊厳を損ねないような対応に取り組んでいる。また、プライバシーに配慮し、ホール等では申し送りを行わない等の取り組みをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	天気が良い時は、庭に出て散歩したいと言われる方は、自由に散歩して頂いている。	「帰えらんば！」と言われる方は話を傾聴し、家族に電話したりして家族の面会や家族の協力で自宅への外出をされています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人様の意志で自由にテレビを見たり、気の合う方と話をされる方もいますし、NHKのニュースを見せてと言われる方やテレビに飽きると部屋に連れて行ってと希望されている。	昔から自分の決まった時間に行動をする方は、ナースコールで本人様の意志の通り対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	気分によって自分の好きなアクセサリを付けられている。	元気な頃から行きつけの美容室に娘様と一緒に出かけられたり、行きつけの美容室から迎えに来てもらっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員も一緒に食べ、本人様が一人で食べやすい環境作りをしています。	刺身や納豆が嫌いな方は、別メニューを提供しています。	地域の協力を得て、旬の野菜や新鮮な魚等の食材を活用し、安心して食べられる食事を提供している。手作りの足置きを作るなど、食事の際の姿勢等にも気をつけ、自分で美味しく食べることができるような配慮をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ソフト食も普通食も調理師により毎月バランスのよい食事が提供出来ています。水分も10:00と15:00その他も入浴後や希望があれ時は自由に飲んで頂いています。	ソフト食も普通食も調理師により毎月バランスのよい食事が提供出来ています。水分も10:00と15:00その他も入浴後や希望があれ時は自由に飲んで頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自分で出来る方も言葉かけを行って必ずして頂いている。出来ない方は職員が行っている。	食後の口腔ケアは必ず行っているし、出来ない方は、職員が行っている。インプラントの方は月2回の訪問歯科衛生士に来てもらっている。口臭が強い方は、歯科医に相談した。		

自己	外部	項目	Aユニット	Bユニット	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿パットを使用され介助がいる方も、その方の状況に合わせてトイレ誘導を行い、排泄されていない時は、ゆっくりトイレに座って頂き出来るだけトイレで排泄してもらうようになっている。	尿パットを使用され介助がいる方も、その方の状況に合わせてトイレ誘導を行い、排泄されていない時は、ゆっくりトイレに座って頂き出来るだけトイレで排泄してもらうようになっている。	ほとんどの入居者が布パンツを使用し、トイレで排泄ができるように取り組んでいる。自然排便を促すため、食事の内容等にも工夫をし、排泄の自立支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多くとりれた食事や起床時にセンナン茶を飲んで頂いたり、10:00に牛乳やヨーグルトを食べて頂き自然には便が出来るように工夫している。	毎日の排便のチェックと運動や昼食後にはゆっくりトイレに座って頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	拒否がえられる方は無理に言わず、次の日等にまたお誘いしたり、清拭や足浴を行っている。午前中は機嫌が良く入っても良いと言われる方は、午前中に入浴してして頂いています。	拒否がえられる方は無理に言わず、次の日等にまたお誘いしたり、清拭や足浴を行っている。	週4回入浴しており、入る順番も入居者の好みに合わせている。必要に応じて2人介助をするなど、安全面にも配慮している。また、1対1でのコミュニケーションの中で、入居者の本音を聞ける大事な時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人様の意思でテレビを見たいと思われる時は見られ、部屋で休みたいと言われ時は、休まれています。	夕食後テレビをゆっくり見て寝られる方は、本人様が眠くなられるまで見て頂き入床して頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日の看護師の容態観察と、毎朝のバイタルと体調が良くない方の夜間の状況を毎朝Faxを加茂医院にしている。週1回の主治医の訪問時に相談して内服等もこま目に変えている。	毎日の看護師の容態観察と、毎朝のバイタルと体調が良くない方の夜間の状況を毎朝Faxを加茂医院にしている。週1回の主治医の訪問時に相談して内服等もこま目に変えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご自分で新聞をとられており、自分の部屋で毎日楽しみに読んでおられる。洗濯物を干したり、たたんだり、お盆拭きをされたり、大好きな刺し子もされています。	洗濯ものをたたんだり、ゴミ袋に名前を書いて下さっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の夏祭りに参加されたり、以前からされていた、ボランティアの仲間の方とボランティアに参加されています。	行きつけの美容室から迎えに来てもらい希望がある時に行かれる。娘様とも月に1回行きつけの美容室に行かれています。	遊歩道がある庭で散歩や外気浴をしたり、ドライブへ行ったりしている。また、個々の状態を見ながら、季節毎に地域の名所を訪問している。	

自己	外部	項目	Aユニット	Bユニット	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ヤクルトさんに来てもらい自分の好きな物を選んでおられる。	該当者はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話をしたり、手紙をかける方はおられないが、面会時に本人様の意向を伝えている。	職員が電話を取り次ぎ話しやすい環境を作ったり、希望がある時は、職員が家族に電話をし、本人様の希望を伝えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じるように月毎に掲示を変えている。トイレは仕切りのカーテンをし、プライバシーを守っている。浴室も洗面所と脱衣所の間にカーテンをしている。冬と夏のカーテンも変えている。	季節を感じるように月毎に掲示を変えている。トイレは仕切りのカーテンをし、プライバシーを守っている。浴室も洗面所と脱衣所の間にカーテンをしている。冬と夏のカーテンも変えている。	リビングでは車椅子のままではなく、椅子やソファーに移ってもらう等、生活のメリハリをつけるようにしている。また、家具や机の配置を考え、他の入居者とも交流を行いながら、居心地よく過ごせる空間づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	全個室であるが、気の合った方同士と一緒にソファーに座われ、テレビを見たり話をされて過ごされています。	ソファーでテレビを観て楽しく過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様が希望される物は、ダンス・仏壇・テレビ等も置かれ居室でゆっくり過ごされる様にしている。	娘様がお母様の過ごしやすようにチェストや鏡、テーブルセンターを飾り家に居た時の様にされている。	本人が使い慣れた家具等は自由に持ってきてもらっている。ベッドや家具の配置は、日当たり等も考慮して行っており、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーだし、歩行が不安定な方も時自力で歩行して頂き、常に見守りしている。トイレも便所と大きく表示している。	排泄が自立されている方も、拭き残しが無いか確認して清潔に過ごしておられる。トイレも便所と大きく表示している。		